

0110 | 民俗学

2 単位 (通信授業 2 単位)

亀井好恵講師

授業の概要と目標

わたしたちの生活には、古い時代の民俗文化を投影しているものが意外と多い。この科目は、ふだん見過ごしがちな奉納物、年中行事を注意深く観察することで、庶民信仰のあり方や何げなく行っている行事の意味を考えていこうとする。

課題で取り上げるような民俗文化は、表面上は新しい様式が主流になったように見えてもその根底には庶民の願いが流れていると考えられ、またある行事が変化するには変化の要因が必ずあると考えられる。そこで、ここではまずは民俗文化の様相に触れることを手初めとし、変容しつつも伝承される民俗文化を考えたい。

課題の概要

○通信授業課題 1

「寺社・小祠に寄進された奉納物を調査し、庶民信仰のあり方について考察せよ」

対象とする奉納物には、たとえば鳥居や玉垣、常夜燈、狛犬、絵馬などさまざまな種類があるが、これらの形態や銘文等の観察・記録をもとに、必要に応じてこのことを熟知する人に話を聞く。以上の調査を終えたうえで、文献や資料を参考とし、奉納する庶民の信仰のあり方を考察すること。

○通信授業課題 2

「自分の住んでいる地方または自分の家の盆、あるいは正月行事を調査し、考察せよ」

盆あるいは正月行事についてできるだけ全体を見ることが望ましいが、そのなかの一部、例えば盆踊り、盆礼、小正月の行事などを重点的に取り上げてよい。行事の変化(消滅・変容・創造)の様相を視野にいれた考察が望ましい。

どちらの課題にも調査対象のスケッチまたは写真を必ず添付すること。レポート本文を補充するような資料があればそれも添付すること。それらの添付資料には学籍番号、氏名を記入すること。

各自の参考文献、引用文献、調査年月日、場所、話を聞いた人の氏名・年齢などはレポートの最後に必ず明記すること。

* 課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

各課題は、現地での調査が前提となっている。ふだん見過ごしがちなこれらの調査対象を注意深く観察、調査のうえ、まとめあげるよう心掛けること。また、具体的な事実と各自が行う解釈とは明確に区別して記述する必要がある。

それぞれの課題を調査し、まとめあげるには相当の日数が必要となる。1つの課題が終了したら速やかに提出し、講評を受けること。

成績評価の方法

提出課題の評価による。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1~4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

教材等

教科書：宮本常一『民俗学への道』(未来社 1983 年)

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』

(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017 年)